

漁師&漁協チーム

小豆島の漁協



- ・小豆島内の漁協は全部で6つあります。
※香川県内の漁協数（34組合）
- ・小豆島内でも漁協によりそれぞれの特色があります。
- ・それぞれの漁協が単独で運営を行っています。

漁協組合は…？

- ・漁協組合は、漁師が一人では対処できない問題や課題に対して協力しあうことで力を発揮する組合です。

その他にも

- ①漁民の経済的社会的地位の向上させる。
- ②水産業の生産性を高める。
- ③水産資源の乱獲などの防止。



四海漁協組合



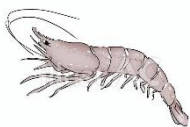
実際に見学

- ・組合員数 119名（見学時の人数）

主な漁法

- ・底曳網・海苔養殖・刺網・込網・タコ縄・建網

四海漁協組合の主な漁獲物



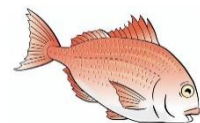
サルエビ



鯉



舌平目



真鯛

四海漁協組合の主な事業

事業部門	総務部門
1. 購買事業 2. 共済事業 3. 利用事業 4. 製氷・冷凍事業 5. 販売事業	1. 指導事業 2. 無線事業 3. 受託事業 4. 経理 5. 庶務

現状と課題

四海漁協の現状	取り組んでいる課題の解決策
・ 魚価値の低迷	・ 底曳網漁業
・ 漁獲量の減少	・ 未利用資源の活用
・ 後継者不足	・ ハモにフォーカス



特に後継者不足が喫緊の課題！

○漁業者 平均年齢：約55歳以上

「正組合員数：58名 准組合員：61名 計：119名」

60歳以上の漁師：約70%以上

50歳以下の漁師：9名

○後継者 過疎化：島外に出る若者が多い

世襲制：漁業者になるためには、基本的に代々漁業者の家系に限られる

将来性：漁村問題を抱える中で、子供へ跡継ぎを勧める漁業者は少ない

正組合員数



約15年後

正組合員数は約20名まで減少してしまう

組合存続の問題！！

まとめ（感想）

実際に、漁協の活動を見学に行き、様々なことを見て聞きました。

① 実際に思い描いていた、活動とは異なった

・見学に行くまでは、小豆島ではたくさんの種類の漁獲物が取れるなど、島だから漁師が多いなどの勝手なイメージがありましたが。実際は後継者不足やとれる漁獲物は限られていました。しかし、様々な問題に対して真剣に改善に向かい取り組んでいました。

② ハモのブランド化

・小豆島でとれたハモを島鰐とし、ブランド化しブランド品としての厳しい基準を設けブランド管理・保持を図っていました。

③ 我々にできること

・実際に、活動としてできることは少ないですが、認知するなど漁協組合の活動を知ることがとても大切だと思いました。

定時制4年
Nさん

実際に四海漁協組合の方にお話を聞きに行って鰐のことをたくさん知ることができて良かったと思いました。

四海漁協に行くと鰐が水槽にいっぱいいた。
うまそうだった。
でかかった。

定時制2年
Kさん



実際に見て聞いてみて、活動のイメージと実際の活動内容にギャップがありました。組合の皆さんは、小豆島の漁業の発展のため日々様々な思考錯誤をしていました。我々個人が直接的に活動を支えることは難しいですが、活動の認知などできることをしていきたいと思いました。

定時制4年
Oさん

四海漁業協同組合（香川県小豆郡土庄町伊喜末1-4）へのアクセス方法

- | | | | |
|-------------|--------|-------------|--------|
| ・土庄港 ～ 四海漁協 | 車で約10分 | ・池田港 ～ 四海漁協 | 車で約15分 |
| ・坂手港 ～ 四海漁協 | 車で約35分 | ・福田港 ～ 四海漁協 | 車で約35分 |